

平成 19 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 若手研究(スタートアップ) 4. 研究期間 平成 19 年度 ~ 平成 20 年度
5. 課題番号 1 9 8 0 0 0 4 9
6. 研究課題名 非言語チャネルを含む社会的行為の行為素配置規則の定式化

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
1 0 4 5 4 1 4 1	<small>フリガナ</small> エノモト ミカ 榎本 美香	片柳研究所	研究員

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	<small>フリガナ</small>		
	<small>フリガナ</small>		
	<small>フリガナ</small>		
	<small>フリガナ</small>		
	<small>フリガナ</small>		

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字~800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究は、人と社会的なマルチモーダル・コミュニケーションができる対話システムの基礎理論として、非言語チャネルも含めた社会的行為のやりとりを構成する要素(行為素)を明らかにし、その配置規則を人々の行動から抽出することを目的とする。社会的行為とは、会話中に表出された行動のうち他者に適切な反応を要求するものであり、コミュニケーションに寄与する言語・非言語行為を指す。

本年度は、(1)日常的会話データデータとして、コンビニエンスストアでの買い物シーン、飲食店での注文シーンを計6, 5時間分収集し、(2)発話内容の書き起こし、非言語行為のアノテーションを行った。非言語行為のタグ内容としては、会話データにおけるインタラクションの様相を観察し、必ず対になって生起する行為を取り上げた。商品を渡す・受け取る、代金を渡す・受け取る、箸を渡す・受け取る、お釣りを渡す・レシートを渡す・受け取るなど計22種類の行為セットが特定された。これらの行為は、社会的行為として人々が日々行っているやり取りを構成する行為素群である。そして、(3)行為素対を構成する各行為素の時間的生起順序を明らかにした。タグ付けした行為素対を網羅的に調べた結果、以下のような生起規則が抽出できた。その規則とは、(a)先行して生じた行為素の動作が完成するとほぼ同時に、続いて生じた行為素の行動が完成する。(b)先行した行為素の動作開始と終了は必ずしも、後続した動作の開始・終了よりも前に発生する、というものである。例えば、商品を渡す・受け取るという対であれば、商品が渡される瞬間と渡される瞬間はほぼ時間的に一致している。ところが、渡すという行為が開始される時間、終了される時間はそれぞれ、受け取るという行為が開始される時間、終了される時間よりも早い。これらの結果は、一部の会話シーンだけから抽出されたものではあるが、非言語行為を含む行為のやり取りに関する一般的な配置規則を定式化する上で、非常に重要な知見である。

※ 成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4 判縦長横書 1 枚)を添付すること。

10. キーワード

- | | | |
|--------------|-------------|-----------------------|
| (1) 知能ロボティクス | (2) 会話情報学 | (3) 社会的行為 |
| (4) 行為素配置規則 | (5) 非言語チャネル | (6) マルチモーダル・コミュニケーション |
| (7) 話者交替規則 | (8) 隣接ペア | (裏面に続く) |

11. 研究発表（平成19年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（2）件

著者名	論文標題				
榎本美香	非言語チャネルによる社会的行為の隣接対に関する記述				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
人工知能学会研究会資料	無	SIG-SLUD-A703	201018 111	pp. 87-92.	

著者名	論文標題				
榎本美香	久しぶりの発言はいかにして可能になるか				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
社会言語科学会第20回大会発表論文集	無		201017	pp. 58-61.	

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
			111		

〔学会発表〕 計（1）件

発表者名	発表標題		
榎本美香	会話エージェント対ユーザのマルチモーダルインタラクションにおける非言語チャネルを含む行為の連鎖規則の抽出		
学会等名	発表年月日	発表場所	
同エージェントワークショップ&シンポジウム2007	2007年10月29日	沖縄コンベンションセンター	

〔図書〕 計（1）件

著者名	出版社		
Yasuharu Den	John Wiley & Sons Inc.		
書名	発行年	総ページ数	
A scientific approach to conversational informatics: Description, analysis, and modeling of human conversation. T. Nishida (Ed.). Conversational informatics: An engineering approach	201017 111	pp. 307-330	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

<http://mika-enomoto.info/>